

1 PLAN(目的・概要)

建設整備事業

政策名	物流・産業	29年度事業・施策評価結果			責任者	建設部 事業推進課長
施策名	国際・国内海上輸送機能の強化	成果	コスト			
事務事業名	庄内川泊地整備事業	継続	維持	維持	連絡先 連携課	052-654-7921 海務課
目的	対象(誰・何を)	庄内川泊地			事業 期間	昭和55年度～継続
	意図(どういう 状態にしたいか)	コンテナ船や自動車専用船などが安全に航行できるように必要水深を確保します。				
概要	整備場所:金城・空見ふ頭～飛島・木場金岡ふ頭間の泊地 内容・規模:庄内川から流入する土砂による泊地(船舶の停泊または回頭のための水域)の埋没を防ぐため浚渫を行うことにより、港の機能の維持・向上を図ります。国土交通省と予算及び埋没エリアの確認など工程管理に関する協議を行います。 事業手法:直轄事業			根拠 法令等	社会資本整備重点 計画法 名古屋港湾湾計画	
事業着手時点の 評価	庄内川から流入する土砂を浚渫することにより、水深を確保し船舶の安全かつ円滑な航行を確保します。			実施 義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
30年度の実施予定	港湾施設の利用に支障が生じないよう浚渫が必要な個所を協議し、国が浚渫を行います。			関連 シート		

2 DO(実施)

30年度に実施した 内容・結果	庄内川から流入する土砂により港湾施設の利用に支障が生じないよう、浚渫が必要な個所を協議し優先順位の高い箇所から国が浚渫を行いました。					
コスト	単位	28年度	29年度	30年度	平均	備考(費用の増減理由等)
工事費	千円	(1,052,340) 473,553	(1,060,000) 477,000	(1,344,000) 604,800	(1,152,113) 518,451	平成29年度は600,000千円の補正予算が含まれます。 工事費の( )は、国費負担分を含んだ金額です。
人件費	千円	2,240	2,941	2,950	2,710	
合計	千円	475,793	479,941	607,750	521,161	

3 CHECK(検証)

指標名		28年度	29年度	30年度	中間目標	30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
庄内川泊地の埋没により、使用を停止した港湾施設の数(件) (単年度管理型)	目標	0	0	0		0	庄内川から流入する土砂を浚渫することにより、水深を維持し、港湾施設の使用停止を発生させないこととして、0件を目標値に設定しました。	
	実績	0	0	0		0		
	事業進捗状況(30年度)		目標値を上回る 目標値をやや下回る		目標値どおり 目標値を下回る			
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	泊地の浚渫を適切に行ったことにより、埋没による港湾施設の使用停止はありませんでした。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性 事業着手時に比べ必要性が低下していないか? 事業費規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○	庄内川から土砂が毎年度流入しており、庄内川下流の両岸にあたる飛島ふ頭、金城ふ頭にはコンテナターミナルや完成自動車の取扱岸壁が存在するため、埋没を防ぐ浚渫が必要不可欠です。						
有効性 事務事業は、施策達成に貢献するか? 期待どおりの成果が得られているか?	○	泊地の埋没を防ぐことは、上位施策である「国際・国内海上輸送機能の強化」に貢献すると考えております。流入土砂を浚渫することにより、水深を確保し、船舶の安全かつ円滑な航行を確保できていることから、成果が得られていると考えております。						
効率性 最小のコストとなっているか?	○	コストが最小になるように精査して事業を進めています。						

4 ACTION(取組)

5年間の状況	課題	令和元年度以降の取組	継続
目標値どおり	今後も浚渫が必要な個所を精査し、港湾施設の利用者との調整を行いながら着実に事業を実施する必要があります。	引き続き、浚渫が必要な個所を精査し、港湾施設の利用者との調整を行い、着実に事業を進めていきます。	